

大会テクニカルレポート

大会名 2017年度 5年生選抜研修大会

日 時 2018年 1月20日(土) 27日(土) 会場 赤羽スポーツの森公園競技場/南豊ヶ丘フィールド

東京都少年サッカー連盟委員長 吉實 雄二

技術指導部長 井上 雅志

文責 技術指導部 小林 大悟

結果概要

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	22	89	3.9

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

攻撃 常にボール状況、味方・相手のポジション、スペースなどを意識的に観て、相手ゴールに近い味方選手へ積極的にパスを試みていた。また、相手チームがブロックを作りコレクティブに守備したときは、サイドのスペースへボールをフィードすることもできた。広いスペースや狭いスペースの関係なく、チャンスを観て判断をしてプレーする選手が多く観られた。

守備 ボールウォッチャーになり、マークする相手を観ることができず、味方ゴールに近い相手選手に簡単パスをされてピンチを招く場面が多く観られた。

プレー全体 相手のハイプレッシャーの中でも選手一人一人が優先順位を意識して、相手選手との駆け引きをしながらゴールを目指す・ゴールを守る意識が必要ではないかと感じられた。そのためには日々のトレーニングにおいて、オフの動きの重要性を指導者が今以上に伝えるべきだと感じられた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする（ファーストタッチの質・プレーの選択）

観るものが少なく、判断に伴った、テクニックを発揮できずに、簡単にボールを奪われることが多かった。相手選手から離れ、よいポジションを取り次のプレーを意識して良いファーストタッチのボールコントロールをしてもらいたいと感じた。また、多くの選択肢を持ってプレーをすることが少なく、自分の状況に関わらず意図の感じられないプレーしてしまうことが多く観られた。状況に応じてプレーを変化させる選手が多くなって欲しいと感じたが、相手ゴール前では、多くのアイデアをもっている選手が多く観られた。

③攻守に関わり続ける

全ブロックの選手が、攻守に関わり続け、積極的なプレーが多く観られた。攻撃時において、サイドの選手が積極的にボールホルダーを追い越し、オーバーラップをしていた。FWの選手は、ボールを奪われた後は即座にボール奪取に切り替えていた。攻守における運動量はとても素晴らしいと感じた。また、前からボールを奪う意識をチームとして持っていたが、1対1の局面で抜かれないことを意識して、個の力で奪うことができる選手が少ないと感じた。

④積極的にコミュニケーションできる

例年に比べ、ゴールキーパーは沢山の声が出た選手が多かったように感じた。だが、その指示が味方選手に伝わらずに意思疎通ができてたとは感じられなかったのが、今後の課題である。ベンチの選手からピッチ内の選手に積極的に声掛けをしていて素晴らしいチームが多かった。

⑤リスペクトの心をもてる

レフリージャッジに素直に従い、試合が終わった後も自ら、相手選手と握手をする場面が多く見受けられた。しかし、指導者から、レフリージャッジに対して不満の声が聞こえてきたのは、残念であった。

ゴミ拾い等の施設を掃除してくれたブロックもありピッチ外でもリスペクトの心を持つチーム・選手が増えてきたことが感じられた。

総評

各ブロックの選抜チーム同士の試合だけあって、見応えのある試合が多かった。選手の一人一人の技術、身体能力、判断力等も非常にレベルが高かったように思う。GKからビルドアップして簡単に相手ボールにならないよう繋いでいく組み立ては多くのブロックが実施していたが、判断なく大きく蹴らせてしまうブロックもあった。

ハイプレッシャーの中でも発揮できるテクニックを身につけ、オフの部分での相手選手との駆け引きを攻撃時にできる選手が多くなってもらいたいと感じた。そのためには、動きながら「観る」ことが重要で「いつ・何を・どのように」観るのかを選手がピッチ上にて習慣化できるようにして欲しい。選択肢を多く持って、その中でよい判断をできる選手になってもらいたい。2人、3人とたくさんの味方が関わることで多くの選択肢が作れるように攻守においてもオフの動きのレベルアップが重要と思う。